



落ち葉たっぷりのトレイルを抜けて朝熊山を駆け上る。



場では伊勢湾や鳥羽方面の笠志島など、海を見渡せるポイントも多かった。555mの八大龍王から二瀬橋までシングルトラックを一気に駆け下りた先にあるエイドでは、甘いもの、フルーツだけでなく温かいスープも用意されていた。

この先が「川を渡るポイントがあります」と石川さんが前日のコースガイドンスで話していたポイント。そう言われていても、やはり目の前に川が出てくると戸惑ってしまう。なるべく濡れないようにコースを選んでみたけれど、最初の一步でシューズはグシャツ。開き直って次の一步、二歩と進むと冷たいけど気持ちいいような変な感覚。

そして、すぐにロープで壁を登るポイントに差し掛かる。このあたりはコースをつなげるのが大変だったそうだが、まさにアドベンチャーレーサー的な発想でルートはつながれていた。レース後、その先の「昼川山登山道の登りにシビれた」という声が多かったように、ここで意外に苦戦。20kmシヨートレンジのレースではあったが、最後のこの登りのおかげでフィニッシュ後はそこそこの満足感(疲労感)を得ることができた。

